

東京都立玉川高等学校同窓会より玉川小学校への寄附によせて

このたび、東京都立玉川高等学校（以下「玉高」と称す）同窓生及び元教職員など六百余名の方々からお預かりした玉高記念碑建立寄付金と、その後の利子を含めた総額1,140,246円を、世田谷区立玉川小学校（以下「玉川小」と称す）の改築援助金として寄贈することといたしました。玉川小とは、昭和30年4月、玉高の創立時に校舎建設が間に合わず、1期生が仮校舎として教室を借用したという創立時のご縁があります。昭和25年ごろから地元の方々を中心に玉川地区に都立高校の設置をとの熱意と要望による運動が展開され、創立が実現したことから、ベビーブーム期の児童2,000人近くを擁する中でも教室を提供いただいたと、当時の開校記念式での校長式辞が伝えています。このようなご縁をきっかけに、次世代を担う子どもたちに供したいとの思いから、今回の寄贈となりました。

そして、皆様ご存知のように、玉高は、平成20年3月1日をもって閉校となり、新設の東京都立世田谷総合高校（以下「総合高校」と称す）に統合されました。創立以降、51期1万3千余名の卒業生が玉高から世に巣立ってまいりました。そのような歴史を持つ玉高の記念碑が、東京都により、総合高校の正門横に設置されております。

一方で、この記念碑とは別に、我々の思い出の場である玉高跡地に何らかの記念碑を設置したいという気運が同窓生間に高まりました。このような気運の高まりを受け、閉校に向けた一連の活動のなかで、当時の「玉川高校卒業生会」が、新たな記念碑建立のため、募金活動を推進することになりました。その結果、前述のように、同窓生及び、元教職員など六百余名の方々から、総額百万円超のお志をお預かりするに至りました。その後、活動主体は、「玉川高校卒業生会」から、新た

に設立した「玉高同窓会」に引き継がれました。このように、同窓生等多くの方々の強い思いのもと、記念碑建立実現に向けた活動を鋭意継続して参りました。

しかしながら、都知事あての請願開始から17年を経た令和8年1月時点でもまだ、記念碑建立の確証が得られていません。建立許諾見極めまで、今後、少なくとも2年程度を要し、仮にその時点で建立が許可された場合でも、更に5年または、それ以上の着工待ち期間が必要なことから、全体として、今後7～8年の期間を要することが判明しました。

そのような状況のなかで、活動の主体たる玉高同窓会役員の高齢化がすすみ、この高齢化による活動の停滞と、特に寄付金管理が、徐々に難しくなることを考え、同窓会会長 萩谷 京平(7期)、同副会長 木村 裕恒(10期)、同事務局長 田村 宏(1期)、同事務局次長 矢城 敬一(27期)の4名の責任において、記念碑建立計画の断念を決定いたしました。建立計画に賛同され、寄付金をお寄せいただいた多くの皆々様の負託にお応えすることが出来ず、玉高同窓会役員会として、残念かつ大変申し訳なく存じます。計画の断念により、お寄せ頂いた寄付金は、上記4名の同窓会役員責任において、本文当初に記載のとおり、その全額を世田谷区へ寄贈することとし、ご縁のある玉川小の改築援助金として次世代を担う子どもたちのために、活かしていただくことになりました。なお、記念碑建立計画の活動経緯をまとめた資料を、総合高校内「玉高メモリアルルーム」に5月中旬以降保管展示予定です。同窓生の皆様、是非ご覧下さいますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、玉川小学校が、これからも子どもたちを育み、地元の皆様に愛される学校であり続けますよう玉高同窓会として心より応援をいたしております。

令和8年4月吉日

東京都立玉川高等学校同窓会 会長 萩谷京平